

助成年度：平成 21 年度

[所属] 甲南大学 文学部

[役職] 准教授

[氏名] 鳴海 邦匡

[課題]

過去 200 年間における社寺林と陵墓林の植生景観の変遷に関する基礎的研究

—主に畿内の事例を中心として—

[内容]

本研究助成を得て実施した調査研究は、大きく以下の 3 つに分けることができる。

- ① 過去の社寺林についての調査：ここでは江戸幕府の大工頭として活躍した中井家資料（絵図）の調査を中心に行った。具体的には京都大学附属図書館所蔵の「中井家絵図・書類」、京都府立総合資料館所蔵の「中井家資料」に含まれる古地図・文書の調査を実施した。調査結果としては境内の植生を細かく描いた絵図を見出せなかったが、中井家の古地図に関する基礎調査の充実や貴重な所見を得ることができた。
- ② 過去の陵墓林についての調査：ここでは宮内庁書陵部に所蔵される資料（古地図、古文書）の調査を中心に進めていった。その調査の過程で、図書課所蔵資料と公文書のなかに、幕末から近代にかけて陵墓林の景観を知る有効な資料があることを確認し、その調査撮影を実施した。その成果の一部については資料集として発行した。
- ③ 現在の植生景観についての調査：社寺林と陵墓林の現況を知るため、大阪府、京都府、奈良県の陵墓 19 ヶ所と神社 8 ヶ所の森林植生の調査を実施した。その結果、多くの所見を得ることができた。例えば、陵墓林について幕末と比べると、マツを主体とした疎な林から、アラカシ、クスノキ、ヒノキを主体とした密な林に変化したことが分かった。そのほか、京都の陵墓の場合をみると、スギが比較的多いといった事象も確認され、地域による違いも確認することができた。